

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

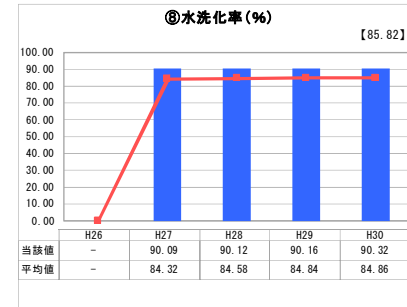
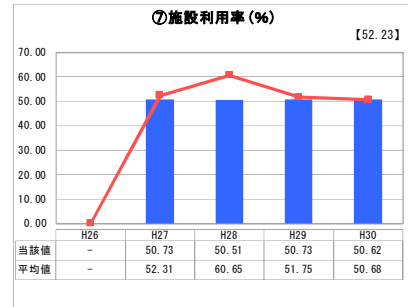
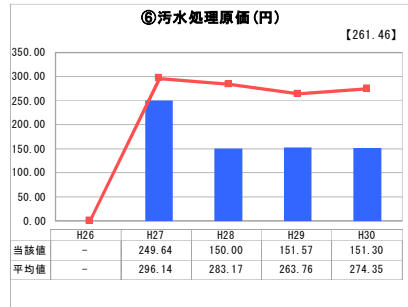
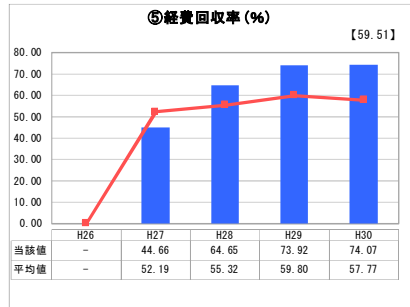
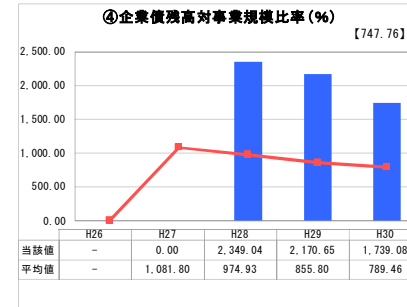
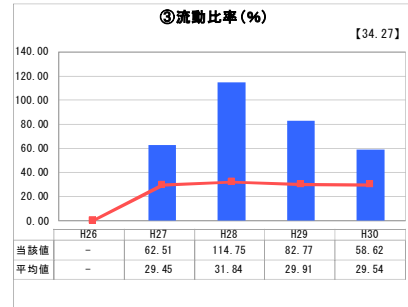
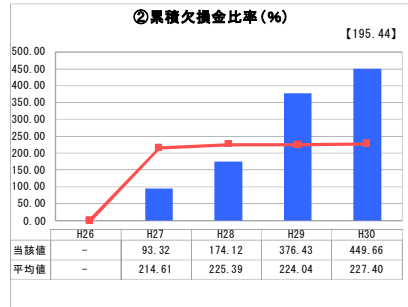
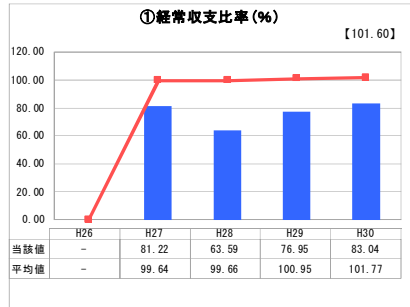
熊本県 合志市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金 (円)
-	71.52	3.50	110.06	2,310

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
62,215	53.19	1,169.67
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
2,179	1.25	1,743.20

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市の農業集落排水事業は、単独処理場を有し、多額の維持管理費用が必要となっています。本市では、ほかに公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業も実施していますが、3事業とも同一の料金体系としています。

平成27年度から地方公営企業会計に移行し、4回目の決算となりましたが、①経常収支比率は前年度比6.09%増加したものの、100%未満で単年度収支が4期連続の赤字となりました。⑤経費回収率についても前年度比0.15%の微増とはなってはいますが、依然として汚水処理費用を使用料収入で賄えない状況であり、一般会計からの繰入金に依存した経営となっています。

累積欠損金が年間営業収益の何%になっているかを表す②累積欠損比率は、449.66%となり損益収支が悪化している状況です。これは、当年度の総費用が総収益を上回るため欠損金が発生しており、その欠損金を補填する剰余金もないためです。累積欠損金を解消するために、令和元年9月分から下水道使用料の値上げを行いました。今後建設費や維持管理費について効率的、計画的に取り組むことによるコストを抑制する必要があります。

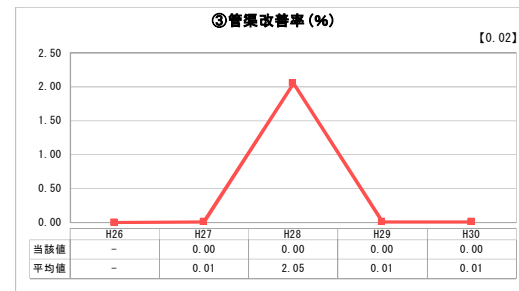
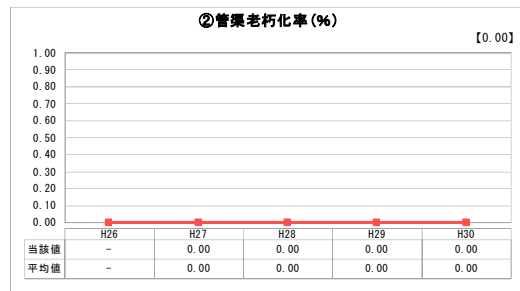
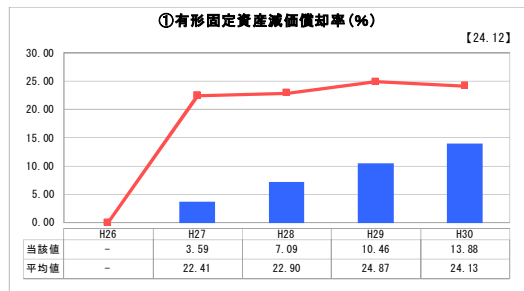
④企業債残高対事業規模比率は、企業債残高の減により431.57%の減となっているものの類似団体平均値より高い状況です。

### 2. 老朽化の状況について

平成12年の供用開始から19年が経過し、電気設備・機械設備の改築・更新が必要な時期になっています。

今後の適正な下水道事業運営、施設の維持管理を実施するため、処理施設の統廃合を含めた最適整備構想及び機能診断調査に基づき、効率的な改築・更新を実施していきます。また、老朽化対策と合わせて、耐震化も進めていきます。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本事業については、今後は施設の改築・更新のほか、処理場の統廃合を検討し、経営の合理化に努めます。また、本事業の収支状況が下水道事業会計全体の負担にならないよう、コスト意識を持って経営を進めます。

本市は今後数年は人口増が見込まれますが、いずれ人口が減少していくことが予想されるため将来を見据えた経営が必要と考えています。持続可能な下水道事業経営のため、平成30年度に策定した「下水道事業経営戦略」に基づき、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を目指します。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。